

# 湛水畝立て栽培におけるサトイモ「石川早生丸」の施肥管理技術

窒素施肥15kg/10aのうち被覆尿素リニア型70日タイプを7割配合する全量基肥 + 牛ふん堆肥2t/10aの施用

## 背景・目的

- ・サトイモの新栽培法“湛水畝立て栽培”は、畑地(慣行)栽培に比べて着生分球数が増加し、優良種いもの確保に有効
- ・湛水畝立て栽培で規格内種いも(20~80g)を安定的に多く確保できる施肥体系の確立

サトイモの種いも栽培体系

(地域:鹿児島本土 品種:石川早生丸)

## 湛水畝立て栽培法とは?

サトイモを水田に植え付けし、葉数が5枚以上展開した6月から3か月程度畝間に水を流しながら湛水する方法

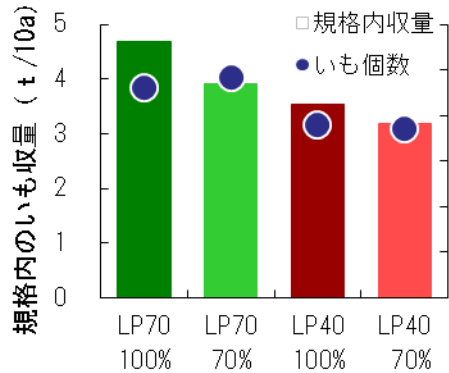


畝間にかんがい水を流し入れる  
※停滞させてはダメ!!

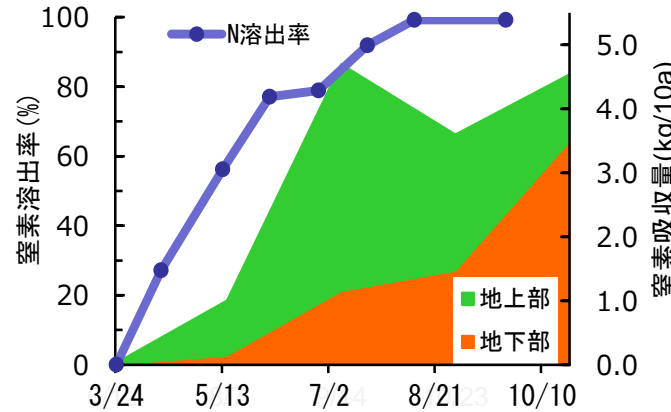


## 成果の内容

肥料溶出タイプ、配合割合の違いによるサトイモ規格内収量と種いも個数

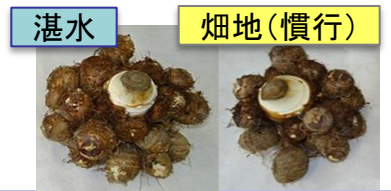


## 被覆尿素的窒素溶出率と窒素吸収量



導入メリット

分球いも数増加  
↓  
規格内の種いもが増加  
↓  
優良種いもの確保



## 期待される効果

畑地(慣行)栽培に比べて単収が向上し、生産者の経営改善につながる。また、優良な種いもの供給量が増加し、県内のサトイモ産地の拡大に資する。

普及対象・範囲  
サトイモの種いも生産農家